

蕪村記念賞 「夏日の宴」

本賞は「自由題の部」「前書俳句の部」の両部門を通じ蕪村顕彰の視点から評価する賞です。

連日連夜

炎帝や酒吞童子にもてなされ

京都府福知山市

芦田美幸

評

【塩見】前書きが絶妙。今夏、酷暑に茹だる日々。当地与謝野では、それは炎帝を每晚招いて酒盛りをしている酒吞童子のせいだ、というウィットに富んだ世界で笑いを生む。炎帝も結構な左党。そんなに毎日同じ相手と飲んでいたら、話す内容も無くなるように、と愚痴のひとつも言いたくなる気分。

【山田】掲句は大江山にちなむ伝説の酒吞童子と炎帝という季題を取り合わせ、恐ろしくも楽し気な宴を描いてみせた。今年の夏は厳しい暑さが続き、夜といえども気温が下がらずに熱帯夜が連日続いたことと重ね合わせていて、飛躍した表現にも共感するような句となっている。辛い暑さをこのようなファンタジーに昇華させたことが楽しい。前書きの「連日連夜」がほどよく諧謔味を感じさせて、前書きが生きた作品になったと思う。

【田中】この夏の連日連夜の暑さ。いつまで続くのかと嘆きあった私たち。この異常気象の原因を、炎帝が歓待されて腰を据えていると捉えたのが秀抜。酒を振舞われて真っ赤な顔で酩酊している炎帝の姿が目に見えるようだ。

【山尾】今夏の極暑続きを独自の感性で納得の一句に仕立てました。「炎帝」も「酒吞童子」に負けず酒豪に違いありません。酒量が増す程に両者は全身を赤らめ、そのエネルギーで昼夜別なく我々の世を燃え立たせたのです。直球の如き前書き「連日連夜」が非常に効果的です。

一読、何と首をかしげるかもしれない。だが炎帝が、火ないし夏をつかさどる、中国古代の神と知ると、そうかと膝を打つ。その神様が、なんと大江山の酒吞童子に招待されたという。炎帝は大酒を喰らって連日連夜、いい気分です。この夏から秋の記録的猛暑がそのせいだったとすると、地上の人間どもが、いくら恨んでも詮ないこと。でもこんな真夏炎暑の宴は、もう御免蒙りたい。蕪村に「雲の峰に肘する酒吞童子かな」があつて、特別賞にふさわしい。隠し味の諧謔性にも乾杯！（関西大学名誉教授 藤田真一）